

ヨーロッパ農業の男女共同参画視察報告  
—南チロル農村女性連盟の活動—

仁平 章子 \*

A Report of Gender Equality in the Agriculture of Europe  
: The Activity of South Tyrol Female Farmer's Organization

Akiko Nihei

ヨーロッパ農業の男女共同参画視察を行い、訪問したイタリア共和国のアルト・アディジェ州、南チロルにおける農村女性の活動や農村女性連盟の組織の現況についての報告である。南チロルは、山岳地域であり日本流に言えば中山間地域ということになる。兼業農家が70%を占めており、家族農業経営の多い地域である。農村女性の役割も明確であり、農村女性なくして地域の活性化は難しいと言わしめるような活躍を、農村女性が行っていることが分かった。

**Key words:** 南チロル農村女性連盟 女性農業者 男女共同参画

1. はじめに

1999（平成11）年に「男女共同参画社会基本法」が制定され2014（平成26）年に15年目を迎えるのである。その間農林水産省や各機関において、女性農業者の経営参画への支援や、起業支援などの取り組みが展開されてきた。女性農業者自身も自ら社会へと活動の場を広げ、主体的に加工、販売を行うなど経営者としての位置を確保している事例も見られるようになった。現在、農林水産省が推進している六次産業化への取り組みも活発化している。女性農業者が、個人の立場で、また組織的な動きとして積極的に生産や加工・販売の活動を展開し地域活性化に貢献している。

ヨーロッパ農業における男女共同参画がどのように展開されているのかを、社団法人全国農業改良普及支援協会主催、のちに農山漁村・生活活動支援協会主催によるヨーロッパ男女共同参画視察において学習してきた。本稿では、ヨーロッパの農村女性連盟のなかで南チロル農村女性連盟の活動と家族農業経営における女性農業者の活動について、南チロル農村女性連盟事務局長と事務局

スタッフの講演内容を纏めて報告する<sup>注1)</sup>。

2. 南チロル農村女性連盟について

1) 南チロルの概要

南チロルは、イタリア共和国、トレンティーノ＝アルト・アディジェ州に属する2つの県のうちの北側の県で、イタリア共和国最北端の県である。北から東にかけてオーストリアに境界を接し、西はスイスに境界を接している（図1中の濃い部分）。この地域は、1363年から1918年までパプスブルグ



図1 南チロル州の位置  
出所：http://www.google.co.jp/search?q

家が継承していたが、イタリアは1918年から南チロルへ軍を駐留させた。その後、南チロルは、1919年サンジェルマン条約によって正式にイタリア領となった。そのためにイタリアでありながらドイツ語を主な言葉として使っている地域である。南チロルは、日本という中山間

地域でありイタリア流に言えば山岳地帯である。

\* 四條畷学園短期大学 ライフデザイン学科

## 2) 南チロルの農業概要

イタリアでは、畜産・園芸・果樹などすべての農場の28.5%が女性農業経営者である。小規模農家になればなるほど女性の労働力が重要になってくる。南チロル農業者の男女比は男性が86%、女性が14%である。世代交代の時、一人の子供に継承されるのは、男性88%、女性12%となっている。

農家の農業継承は、兄弟のうち一人が農場を譲り受けて継承し、残りの兄弟は、農地の兄弟分の1ずつを金額でもらうようになっている。その金額は、市場価格ではなく、農地の収益価格である。つまり農地の収穫によって価格が決まるのであり、市場価格より安いということである。農村女性になった理由をアンケート調査にて尋ねた結果、83%が「結婚して」ということであった。

南チロルには、20,212戸の農家がありその内訳は、8,000戸が酪農と畜産農家で、平均家畜頭数が16頭である(表1)。牛の飼育に関しては、標高が高くなればなるほど飼育頭数は減少していると同時に農家の数も少ない。同地域には、草地の地域がたくさんあり酪農と畜産が盛んである。1,750戸の農家が高原の放牧地を持っており、この放牧地に平均して15頭の乳牛が飼われている。夏の間だけ牛は、夏期放牧地に放牧されている。

酪農と家畜農家以外では、7,300戸のりんご栽培農家があり、平均経営面積は2.5ヘクタールである。次は4,780戸のぶどう農家で、その平均経営面積1.5ヘクタールである。その他、近年増えてきた栽培は、ベリー類でキイチゴ、スグリなどであり、その全体の栽培面積が170ヘクタールになっている。また、牛の飼育に代わって馬を飼育する農家も増加しており、現在馬の飼育頭数は、州全体で見ると7,000頭である。馬の種類はハウフフィンガーといい、南チロル地域の純種である。

表1 南チロル 農家数とその内訳

農家数	内 訳 (戸)	
20212	8000	酪農畜産農家
	7300	りんご農家
	4780	ぶどう農家
	その他	ベリー類栽培/馬の飼育など

出所：講演資料より

南チロルの各農家の経営面積は、小規模農家が多く、地域の平均経営面積は2ヘクタールである。専業農家が30%であり、70%は兼業農家である。100ヘクタール以上の農場を持っている農家は、全体の1%で、10ヘクタール以下規模農家が全体の62%を占めている。そして、南チロルの農地は大体標高500メートルから1200メートルに集中している。

この南チロルで生産される農作物である牛乳、りんごなど農産物の9割は協同組合を通して出荷されている。協同組合の存在は、伝統的であり根強くその歴史が維持されている。

南チロルの農業は、家族農業経営が一般的である。先に述べたが兼業農家も多く、兼業農家の農業経営者は、働く場所が町から遠くても農場に住み、そこから町の職場へ働きに行くのである。つまり生活の中心は農場にあるということである。

南チロルの人種の中にはこの土地を守ろうという血が流れていると思われる。したがって非常に伝統を重んじる州民性があり、農業の継承問題は特に起きていないのが現状である。また、土地との結びつきが深く、「土地を守ろう」「農地を守ろう」という意識が州民にあり、それが起因すると考えられ現在休耕地は存在しない。

収穫時の農繁期には、家族だけでは労働力不足になるために、外国人労働力を雇用している。

## 3) 農村女性連盟について

南チロルの農村女性連盟(以下連盟という)は、イタリア共和国の州のなかでも一番大きな組織を形成している。1981年に結成され、目的は、①女性に職業教育を受けさせる、②手に職を付けさせよう、である。図2は、連盟のロゴワッペンであり、真ん中にあるのは生命の樹(家系図などを表す)で、女性は子供を産んで次世帯につなぐという意味をさしている。生命の樹の周りに穂があり、農家は地と結

びついていることを意味している(図2)。そして農業は、空気、水が大切な職業であることを表している。



図2 南チロル州農村女性連盟 ロゴワッペン

出所：南チロル州農村女性連盟提供資料より

連盟の会員数は、15,600人であり、南チロルを6つの地域に分け、すべての市町村、153か所に支部がある。図3の下部南チロル地図上の6地域に記している数字は、各地域の支部数である(図4)。

同連盟では、1年に1回地域の代表者が集まり、総会が開催される。その時は、伝統を重んじている農村女性組織であり、民族衣装を着用して集まることになっている(図3上部写真は、総会で民族衣装を着用している女性農業者の様子である)。民族衣装で集まることによって社会へのPR活動としての意味が存在すると考えている。そして、年1回の集会では、1981年に結成されたときの目的を振り返り、連盟組織結成時の原点に戻って目的を確認している。

各地域では、農村女性なしでは何も動かない、というのが現状である。地域の農村女性が活動することによって農村女性の存在が有名になる、つまり地域活性化に対して大いに貢献しているということである。農村女性は、農村生活の社会の柱として活躍している。

#### 4) 農村女性連盟の役割と活動

連盟の組織は、農民連盟の中に属している。南チロルの連盟では、ゆりかごから墓場までお世話



図3 南チロル州農村女性連盟の支部数  
出所：南チロル州農村女性連盟提供資料より

することを役目としている。連盟の一番大切な事は、各地域組織に属しているメンバーが快適に過ごされるように、問題を解決できるようにすることであり、連盟の理事は、それらをエスコートする役目がある。地域の農村女性をまとめている理事は、1,200人おり、現在すべてボランティアとして活動している。



図4 南チロル州農村女性連盟組織

連盟は、加入している会員に情報伝達するという役割をもっている。また、農業を非農家の人々に知ってもらうために見本市や展示会など、非農家の人と接触できる場所に行きコミュニケーションを図ることを積極的に行っている。そこで、農業という職業に対するポジティブなイメージを非農家の人々に伝達するのであるが、その伝達は女性の方が上手である。女性は、伝統を重んじて話をするが、男性は、機械の話などをするので農業のいいところが伝わりにくいということが感じられる。農業を町の人々へ伝えるには、口コミが一番有効である。

連盟が最も力を入れていることは、伝統を守ること、祖先が守ってきた伝統を維持し伝承することである。農村女性は、いかにこの伝統が大切であるかという意識に目覚めている。農村女性の意見交換では、農場経営に関するだけでなく、伝統や景観をいかに守るか、という話ができる。

ヨーロッパの農村女性連盟は、農村女性の問題点を話し合うために1年に1回、ドイツ語圏6か国の代表者が集まっている。そこで二三日かけて、われわれが抱えている問題についてじっくりと話し合いを行い、情報の共有化を図りながらお互いに問題解決のための意見交換を行っている。

農村に住む女性の将来の見通しが立たないと女性が育たない。したがって、農村女性の生計が確保できるように、いま州議会に2人の農村女性を

送り込んでいる。政治に農村女性の意見が反映されるように務めているのである。

近年、一番重要視されていることは、若い女性に農家にお嫁に行ってもらうことである。若い女性が農家へお嫁に行き、女性が生計を立てられるという見通しが立つと、この女性が一生農場に留まるであろうと考えられる。そうすると、子供を産み、将来の農家を作り上げてくれるであろうし、伝統を守って伝統を子供に伝えてくれることを期待することができる。これらが、農村女性の役割であるといえる。また、結婚する時に、財産共有と財産分担について話し合っている。

農村女性の最終学歴は、49歳までの多くの人は義務教育を受け、さらに職業教育を受けている。50歳以上の人は、5年の義務教育の学校を出ている人が多くいる。

#### 5) 農村女性連盟が行っているサービス業務

①社会福祉部門と農業部門がある。社会福祉部門では、高齢者の尊厳をもって余生をおくれるような環境を整備することが重要であるとして取り組んでいる。社会福祉共同組合があり、有資格者はそこで雇われており、社会保険も完備している。高齢者のお世話をするのも一つであるが、子供のお世話も重要な項目の一つである。託児所替わりに農場を利用しているケースもあり、45人の女性が、保育士として養成され農場で働いている。子供たちを農場が受け入れることで、自然教育、伝統教育ができると同時に家庭というものを教えることができる。近年、親が離婚して家庭を知らない子供たちが増えており、このような農場での託児所が、子どもの伝統教育に貢献しているのである。

②人生家庭相談がある。家庭内で問題がでると、家庭内で問題が解決できるようにお手伝いをするという業務である。

③家庭菜園や、農家のお庭のガイドがある。非農家の方が、一体野菜はどのように作られるのか、どんな庭のつくり方をしているのかを農村に見に来るケースが増え、人気になっている。

④農場で学校を、というサービスがある。農家の農村女性たちが資格をとって、生徒たちをうけ入れ農場のことを教えるプログラムがある。このプログラムは、子供達が、学校で「農業とは」「農業

の機能」といった理論を勉強し、そのあと子供たちが、農場に来て実際に家畜に触れるなどの農業体験を行い、農産物の出来具合を見て学習するものである。このような「農場で学校を」というプログラムは、小規模農家にとっては副業として収入を得ることができ、何か始める時に投資額が少なくてもよく、恰好の副業として位置づけられている。

⑤農村女性を対象とした成人教育、継続教育という形で講習や講座を開講している。女性に教育を与えるようにと研修や講座・講習の活動に力を入れており、多くの農村女性が向上心をもって研修会や講座・講習に参加している。農村女性は、これらの講座・講習などを受講し、どのように農場で農業体験を教えるかということなどを学び、実際に自身で講座を開催している。例えばパン教室などを開催し、将来の消費者を育てている。

以上の連盟が行っているサービス業務を農村女性は活用して、多くの知識を得たり、コミュニケーションを高め、自分たちを磨くことによって女性が強くなってきていると、連盟役員は実感している。また、男性よりも女性の方が成人教育を上手に利用している、とも連盟役員は述べている。

### 3. 農村女性の活動

南チロルで最も大切な日は、女性の日である。それは、8月15日で、マリア様が昇天された日にあたる。その日に、ハーブの花束を作り、教会のミサに参拝された方に無料で配付している。これらは伝統行事の一環である。また、伝統を大事にし、それを守るために民族衣装の写真を撮りこの伝統を将来へ繋ぐために、それを本にして出版する準備をしている。現在、プロの写真家が各地域に行き、写真を撮っているのである。

最近では、農業のみならず副業として、パーティサービスを行う農家もある<sup>注2)</sup>。そのパーティサービスにおいて以前では、ベーコンなど油脂分の多い食材を沢山使っていたが、栄養のバランスを重視するということでバランスのとれた食事が提供されるようになってきた。

農村女性は、農産物大使として、またメッセンジャーとして、自家農産物を紹介するために学校へ出向いていき、講師として農産物や農業の話を行っている。子供たちに食物に関する感覚を醸成

するという事で農村女性が学校に出かけているのである。例えば話の一例を挙げれば、牛乳について話をすると、それは、牛乳が牛から供給されるということを知らない子供がいるからであり、牛乳の生産に関して教えているのである。子牛が誕生しないと牛乳がでないということを知らない子供がいるのである。また、子供たちに、コップ1杯の牛乳がどのように生産されるのか、1個のりんごを生産するのにどれだけの時間を費やしているのかなど、1年をかけて農家の人たちが農産物を作っている様子や、農家の人達が手間暇や時間をかけて農産物を生産しているのかを伝えるのである。したがって、農村女性が、メッセンジャーとして学校に出向し農業生産などについて講義を行うのは子供を育成するうえでの重要な役割を担っているといえる。環境を守り持続性のある農業を行なっているということを知らせた子供たちに伝える役割を農村女性が担っているのである。

最近、本屋やキオスクに並んでいる雑誌で、手作り物が流行っている。また非農家を対象とした講習会において、干し草を使って物を作る講習会も人気をよんでいる。この講習を開催している講師は、講習ができるように連盟で勉強した農村女性である。ここで講師は、干し草を使った講習会のみならず農業生産や農業の重要性や伝統を守ることなど、農産物には持続性があることも伝えている。

連盟が、非農家の方々への広報活動の一環として重視していることは、庭づくりや家庭菜園をする際にそこで生産されたものを大切にすることである。つまり、在来種を利用して庭づくりや家庭菜園をすることが重要であることを説いている。現在、在来種を保存する菜園などが文化遺産として登録されている。

#### 4. おわりに

日本では、農業就業人口の半数以上が女性であるが、南チロルでは女性割合が14%である。そして、連盟組織の主な活動としては、加盟している女性が活躍でき、収入を得られるような研修会や講習会を行っているのである。女性農業者の収益活動にも繋がるような支援を連盟が行っている。具体的には保育士などの資格を取得できるような講習会を開催する、農業を広めるための農業知識醸成

の講習会などがある。連盟加入女性農業者が、これらの講習会に参加し資格を取得して自宅で子供を預かる、また講習会で得られた知識をもとに食育活動を行っている。また、連盟組織活動の一環として、農業という伝統を守ることの重要性を広報する活動も展開している。農村女性が、食育活動を展開したり伝統を守るための活動を行っていることが分かった。

南チロル地方で兼業農家が多いのは、日本の農業構造と似通っている。兼業の仕事としては、職業教育をうけて大工さんとして週の3-4日をその仕事に充てるといったような働き方や、レストランのシェフとして働くなど、職業教育を生かした働き方が多いことが分かった。

日本においても、一般社団法人農山漁村女性・生活活動支援協会（以下女性協という）<sup>注3)</sup>が主催する経営者セミナーや家族経営協定推進セミナーなどに女性農業者が出席して自己研鑽に励んでいる。また、六次産業化への取り組みが推進されており、農業生産のみならず加工・販売といった分野で女性農業者が活躍している事例もある。女性農業者が経営者として成長できるような支援が、女性協やJA、県普及センターなど各団体にて行われている。しかし、ヨーロッパ農村女性連盟の活動と日本における女性農業者が組織する生活研究グループやJA女性会などとは違いがあるというのが、視察を行ったの実感である。南チロルのみならずドイツやオーストリアの農村女性連盟では、組織の構成員が主体的に活動を展開し、資金面に関しても連盟が企業と契約するなどして活動資金援助を受けていた。また、組織運営も自分たちで行い、政治的にも動く必要があるとして農村女性の代表として議員をおくり出している。

そもそも、日本にはヨーロッパのような農村女性の組織がないといってよい。日本では、生活研究グループ（生活改善グループより名称を変更）が各地域にあり、県単位で連絡協議会を作り、さらに全国生活研究グループ連絡協議会という組織を作り、その事務局を女性協が支援している。つまり、女性農業者が主体的に組織を形成し、運営を行っているということではなく、各地域の生活研究グループの連絡協議会として情報の共有化を図っているというのが実態である。ほかに、全国的な女性農業者の団体としては、全国のJA女性会

を取りまとめているJA全国女性組織協議会がある。この団体も地域のJA女性会を取りまとめたJA全国女性組織協議会として各地方のJA女性会組織の統括を行っている。この団体もJAを拠り所として活動を行っている。主な活動としては、JAグループの全国組織への申し入れや女性団体・各関係機関との連絡・調整、資料・学習資料の作成、全国研修会の実施などを行っている。

生活研究グループは、戦後普及員の指導の下で生活改善グループ活動を展開し今日に至っており、JA女性会は、JA組織の中で女性会が活動を行うように、女性農業者自身の結束で誕生した団体ではない。ヨーロッパの農村女性連盟組織と日本の生活研究グループ組織やJA女性会と比較することは困難であると言わざるを得ない。

今後の日本の女性農業者が、経営者として職業人として成長していくための組織再編が求められる時期が来るのかもしれないと考えている。アメリカにおいても農村女性連盟が活動を展開している。世界の農村女性連盟組織の会合が持たれる日に向けて、日本の女性農業者が主体的に組織を形成し活動することを期待するのである。

林漁業の振興・農山漁村の男女共同参画社会の形成に向けて活動を行っている。

<http://www.weli.or.jp/>より（2014年3月3日取得）

#### 参考文献

1. 南チロル農村女性連盟配付冊子「Heint zu Tog Bauerin sein」2012年10月
2. 社団法人 全国農業改良普及支援協会編 第2次ヨーロッパ男女共同参画視察報告書 2007年3月

－ 2014. 3. 10 受稿、2014. 3. 11 受理－

#### 【注】

注1) 南チロル農村女性連盟事務局長 フェレナ・ニーダーコーファー (Ph.D) 氏、同事務局スタッフ モニカ・ピッヒラー氏の講演より、2013年9月6日ボルツァーノにて

注2) 日本でいえば六次産業化、つまり生産から販売までを実施していることを意味している。

注3) 女性協は、農林水産省の生活改善普及事業を支援するために、昭和32年に社団法人農山漁家生活改善研究会として設立されて、平成19年10月に50周年を迎えた。設立当初の大きな事業は、農村生活改善の指導拠点となる生活改善技術館（現在の農林水産研修所生活技術研修館）を建設し、農林省に寄付したことであった。それ以来、農村生活改善の指導者や農山漁村の女性向けに、技術資料の発行や通信教育等、様々な事業を実施してきた。平成7年10月23日、事業目的を農山漁村女性の地位向上等に関する業務にまで拡大して、名称を社団法人農山漁村女性・生活活動支援協会に変更し、各種の事業を展開しており、唯一の農山漁村女性支援センター機能を有する団体として、農山漁村女性のチャレンジを支援しつつ、ひいては農